



プロジェクト名

## ふるさとや今住んでいる地域ならではの 決まりごとや習慣を探る

「ふるさとや今住んでいる地域ならではの決まりごとや習慣を探る」をテーマに展開するのが、わがプロジェクト研究(略称:プロ研)であります。

人が集まり、組織や社会が形作られ、社会を纏め組織を動かしていくために、様々な規則や決まり事が生まれてきました。部活動や町内会、会社経営にクマの



運転と、地域や組織、そして私たちの日常には必ず何らかの仕組みやルールが存在します。それらの中で、このプロ研では、生まれ育った土地や現在住んでいる地域ならではのと思われる決まりや習慣、制度に着目し、その誕生の経緯、背景等について探ることにしました。こう書くと、内容が固過ぎると、クレームを頂戴しそうです

が、グローバルの視点は先ず足下の理解からを切り口に学習を進めています。

スカイツリーに未だ行ったことのない地元民が多いように、身近な事柄に興味の度合いが薄いのは人の常かもしれません。慣れ親しんだ土地に目を向けて、その決まりや習慣、制度はなぜ生まれたのか、それぞれの歴史を遡れば、未来につながるヒントや発見が必ずある、この想いを旨に、3チームに分かれて、調査・分析を進めています。

例えば、食習慣一つをとっても、地域ごとに根付いた独自の決まり事があります。出汁は昆布が基本、いや鰹だ、お雑煮のお餅は丸だ、四角だ、お酒といえば清酒、当然焼酎でしょう、玉子焼に入れるのは砂糖それとも塩などなど、違いがみられます。日々の営みが習慣となり、やがて地域の文化に発展してきた謎がそれぞれの源を辿ることで明らかになります。自分達が他所も同じだろうと思っていた事が実はその地域独特のものだったというこの発見が他の土地や異なった文化に対する関心呼び、相互理解への礎になれば万々歳です。また、ご近所との交わりや若い世代の定住問題も自治会、町内会の仕組み、子育て支援事業を調べることで展望が開けるのでは、とメンバー1人1人、熱心に向き合っています。

改めて、グローバルな視野は足下からをキーワードに、成果を積み重ねていくことができれば幸せです。



**プロジェクトアドバイザー** 経営学部 中山実郎 教授

**プロジェクトメンバー** (環境学部) 1年: 魚谷侑磨、高安厚志、田中彩菜、濱名由梨香  
2年: 穴吹鞠奈、石井秀空、大澤明恵、福田早紀  
(経営学部) 1年: 有田拓未、加藤美佑、武田眞生、田中陽菜  
2年: 井出康揮、大瀧豊、永松航征、松岡篤生

## 鳥取市の環境を考える学生 ワークショップが開催されました

2019年10月23日、本学で鳥取市の環境を考える学生ワークショップが開催されました。このワークショップは、鳥取市環境基本計画等(2021年度から10年間)の改定に向けて、鳥取市が将来目指すべき「環境都市像」に関する若者の意見を収集・反映するために鳥取市からの要請を受けて開催されたものです。環境と経営の両学部から、環境意識の高い有志の学生18名が参加しました。

4つのグループに分かれた学生たちは意欲的に意見交換をし、「人口が少ないからこそ先進的な取り組みができると思う。使わなくなった施設を活用して、資源循環システムなど特徴的な施設をつくってはどうか」「鳥取には自然などの環境資源が豊富にあるが、それを活用できる人材が少ない。環境教育を一層推進してはどうか」など、限られた時間の中でしたが、様々な提案がなされました。



▲ グループワークでの熱心な議論



▲ 各グループの発表の様子

## 特別公開講演会 「安定的な資産形成のための 金融リテラシー」を開催しました

2019年12月11日に、金融庁の遠藤俊英長官を講師としてお招きし、「安定的な



資産形成のための金融リテラシー」を演題とする特別公開講演会を開催しました。この講演会は、学生の教育・研究活動をより一層充実させることはもとより、鳥取県内における経済・金融等の更なる発展に資することを目的として開催しています。2回目となる今回は、約470名(学生270名、一般200名)が聴講し、会場は満席となりました。

遠藤長官から、まず金融行政改革の歴史を簡単に振り返られたのち、「①日本の家計における金融リテラシーの現状」「②つみたてNISAを例とした長期投資による資産形成の重要性」「③金融デジタルイノベーション戦略の推進に係るサイバーセキュリティ及び暗号資産対応」「④地域金融機関を主軸とした金融仲介機能の十分な発揮と金融システムの安定性確保について」等、多岐にわたるトピックスを解説していただきました。また、金融当局・金融行政運営の改革で取り組まれている「1on1ミーティング」等、組織活性化のための様々な施策をご紹介いただき、盛会のうちに閉会となりました。

金融のスペシャリストである遠藤長官から、直接、かつ非常に分かりやすく講演いただけたことは、本学の学生にとって極めて貴重かつ有益な勉学の機会となっただけではなく、地元企業関係者・地域住民の方々にとっても大変有意義な時間となりました。



▲ 講演の様子(遠藤長官)



▲ 講演の様子(会場)

## 本学の学生チームが「全国大学生マーケティングコンテスト」で第2位を受賞しました

2019年12月15日に神戸市外国語大学で開催された「全国大学生マーケティングコンテスト」で、本学の環境学部と経営学部の混成チームが第2位を受賞しました。

毎年異なるスポンサーが販売する製品のマーケティングプランを競うこの英語のプレゼンテーションコンテストには3年前から本学の学生が出場しており、今回の受賞は初出場で特別賞を取って以来となります。今年は神戸の老舗文具店のナガサフ文具センターがスポンサーで「神戸インク物語」が対象製品でしたが、デジタル社会においても、「手書き文化」が若い女性に受け継がれていることに着目し、インクのトライアルの場としてカフェを活用するプランを提案しました。パイリンガルの学生が多い私立大学や英語専攻の学生チームに劣らないプレゼン力と、実行可能性の高いプランが評価されました。



▲ 大会当日プレゼンの様子



▲ 学長への受賞報告

経営学部3年の春名このみさんを中心に、環境学部3年杉本糸音さん、森美沙さん、そしてインドネシアからの留学生であるオスティナ・ワイブシさんが出場し、経営学部1年の亀井杏奈さんもプラン作成に協力しました。また、人間形成教育センター中村

弘子准教授をはじめ経営学部の教員や英語村のスタッフのサポートもありました。

## 【中央大学共同フィールド演習】中央大学期末成果報告会に本学の学生が参加しました

本学と中央大学とは、連携協力協定に基づく交流事業として、8月に石川県能登町で両大学の学生が参加するフィールドワークを実施しました。(2019年8月28日から30日まで)

このプログラムに参加した本学の学生5名が、12月14日に中央大学多摩キャンパスで開催された期末成果報告会(中央大学FLP環境・社会・ガバナンスプログラム)で発表の機会をいただき、両大学の参加者が学修成果のプレゼンテーションを行いました。

報告にあたっては、プログラムをご担当いただいた中央大学の谷下教授のご指導の下、フィールドワークで活動した3つの班(森、里、川)に分かれて検討を重ね、共同作業の成果として報告資料をまとめあげました。

報告はサマースクールでの活動報告とともに、現地でのエコツアーを提案する形で、各班約7分程度のプレゼンテーションを行いました。各班の発表後は、谷下教授から補足説明も行われ、プログラムに参加しなかった学生もさらに調査地についての理解を深めました。

また、報告会終了後の茶話会では、お互いの大学の情報交換を行い、交流をより深める機会となりました。

参加した学生からは「中央大学の学生の取り組む姿勢が大いに刺激になった」「プログラムに参加しなかった学生とも交流ができてよかった」などの感想があり、有意義な報告会となりました。



▲ 発表の様子